

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年7月31日
タイトル	「くわい」を学校に植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年7月8日(火)福山市立川口小学校5年生100名が、福山市川口町の川口小学校の校庭にあるミニ田んぼで「くわい」の植付け体験をしました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培し、農家の方から生の声を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について取材することで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

第3弾として、子ども達が農家の方にわけていただいた「くわい」を実際に植付けすることになりました。

川口小学校の校庭にある池の半分をミニ田んぼに整備し、「くわい」を植付けます。今回植える「くわい」は、根や茎が伸びて葉もあり、苗のようになっていて植えやすいものを使用しました。

7月8日(火)の1時間目は、小野先生のクラスの子どもの植付けです。植付け前に小野先生から「くわい」の植え方について説明を聞きました。



「くわい」の苗です
矢印みたいな葉がいっぱい！



「くわい」の苗は、下1cmから2cmぐらいのところを持つ事、茎が折れてしまったらちゃんと育たないので折れないようにする事、植える時は穴をあけその中へ苗を入れて土を被せる事など教えてもらいました。

子ども達は、苗を持ってミニ田んぼへ入ります。裸足になったり、長靴を履いた子ども達は、恐る恐る足を踏み入れますが、ぬかるんで上手に歩くことができません。

やっと植え付ける場所まで歩いてくると、手で穴を掘って、苗を植付けました。2本植えたら交代して植えます。先に終わった子どもは足を洗って、他の子どもが植えるのを見守っていました。



植付け、難しいな！



コツをつかんできたぞ！

先日、くわい農家の種本さんの植付けを見学した時、種本さんたちは、いとも簡単にどンドン植えていたけど、子ども達が植付けるとこんなに難しいなんて！農家の方はすごいです。

子ども達は、毎日学校で半年間くわいの成長を観察するそうです。また植付け体験や先日の植付け見学、出前授業などを記事にまとめ新聞を作るそうです。

くわいを植付ける前に池で魚が跳ねていました。小野先生が捕まえるとそれはブラックバスで、誰かが池に放したようでした。とんだ珍客でしたが、子ども達は大喜びでした。



植付けできました！



元気に育っています！

川口小学校5年生の子ども達から、「くわい日記」が届きました。

小川 来夏さん

今日の1時間目に、学校の田んぼにくわいを植えました。手わたされたくわいの苗は小さくて、少しめめめしていて、かわいかったです。

長ぐつをはいて田んぼに入ると、まず、足が動かなくなりました。次に、手で土を触るとどろどろなので、なかなか植えられません。くわいを植えるのは、とっても大変だなと思いました。

これから、わたしは大休けいも昼休けいもくわい畑を見に行き、成長の様子を見たいと思いました。

渡辺 陽香さん

今日、総合的な学習の時間に、くわいの苗を植えました。くわいの苗は、食べているくわいよりも大きくて長いです。そして、いくらか根も生えていました。芽が途中で折れているものは大きくなると調べて分かっていたので、気を付けながら植えました。

この前のくわい畑見学で農家の人に教えてもらったように、苗を植えるときは、苗と苗の間をなるべく開けました。そして、地面から1cmくわいのところまで手で穴をあけ、そこにくわいの苗を植え、土をかけます。

大きく育ったら料理をして、みんなに食べてもらいたいです。



川口小学校5年生のみんなが、日記の子ども達と同じような気持ちで、くわいの植付けを楽しんだことと思います。子ども達も「くわい」も元気にすくすくと育てほしいですね。

福山市土地改良区は、「くわい」などの農作物を通じて地域の方々や子ども達と交流を図り「水土里ネット福山」を多くの方に知っていただけるよう活動してまいります。